

## 【学校の教育目標】 豊かな心を持ち たくましく実践する子

### 〈児童の実態〉

○算数アンケートの結果から、全校の85.7%の児童が算数の学習を肯定的にとらえている（「楽しい」：52.7%、「どちらかといえば楽しい」：33.0%）。また、全校の82.7%の児童が「仲間と交流して、新たな考えをもったり、別の考え方ができることを知ったりすることができる」と感じており（「できる」：54.7%、「どちらかといえばできる」：28.0%）、昨年度からの実践でICT機器を活用して伝え合う活動に重点をおいたことにより、学びの広がりや深まりを実感できる授業づくりができつつあるといえる。

△TK式学力検査の結果を領域別に見ると、「数と計算」「図形」は全国平均を上回っているか同程度であった。昨年度の実践において、弱さが見られる領域に重点を置いて研究を行った成果であると考え。一方で、「測定」「変化と関係」「データの活用」に弱さがあることが明らかになった。

△学習状況調査の結果から、算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないかを考える児童の割合が比較的高いといえる。一方で、日常から切り取った場面設定がされている問題の正答率が低く、算数の学習で身につけた見方・考え方を生活経験と結びつけて活用する力に弱さがある。

### 〈市教委の方針と重点（教科指導）〉

**全ての子どもたちが、自己の力を最大限発揮して、学ぶ意義や喜びを実感できる指導を図る。**

- ・指導内容の系統性及び教科間・学校段階間の関連を踏まえ、一人一人の学習状況を評価し、その結果を教育課程の改善等に生かし、「指導と評価の一体化」による学習評価の充実・推進を図る。
- ・単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、児童生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行う。また、各教科等の資質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習の充実を図る。
- ・互いの見方・考えから学び合うことを通して、自己の考えを広げ深める等、質の高い学びを実現する学習集団を育成するとともに、学習習慣を確立する指導を充実する。
- ・「羽島子ども応援サポーター」と連携を図り、一人一人の状況に合った学習支援を行う。

### 【願う児童の姿】

- 数学的な見方・考え方を働かせ、意欲的に自分の考えを整理して表現する子
- 仲間と共に学び、できた喜び（「分かった」「説明できた」）を味わえる子
- 仲間の考えを聞いて考え方が変容したり、よりよい方法をさらに考えたりし、学びの充実感を味わえる子

## 【研究主題】 自分の考えをもち学ぶ楽しさと充実感を味わう子の育成を目指して ～数学的な見方・考え方を働かせ、自立的・協働的に学ぶ算数科の授業づくり～

### 【主題設定の理由】

昨年度までの研究を通して、「①問題を理解し、本時の課題を明確にすること」、「②見通しをもって個人追究に取り組み、自分の考えをもてるようにすること」、「③自分の考えを相手に分かるように伝えること」について、ICT機器を活用して実践を積み重ねてきた。これにより、単元で育てたい「数学的な見方・考え方」のつながりを意識して授業づくりを行うことに加えて、様々な学習場面でICT機器を有効的に活用する方法を見いだせたという成果があった。特に、仲間と即時に考えを共有し、比較して考えることや、書き込んだり動かししたりして説明できるといったICT機器の利点を生かし、仲間とともに学ぶことに重点を置いた授業づくりに力を入れた。その結果、児童にとって学びの広がりや深まりを実感できる授業を行うことにつながった。一方で、算数の学習で身につけた数学的な見方・考え方を生活経験と結びつけて活用する力に弱さがある。願う児童の姿にある「学ぶ楽しさと充実感」を味わうために、今後は授業で学んだことを日常生活の中で活用する力を伸ばしていきたいと考える。

そこで、本年度は、ICT機器を効果的に活用して考えを広げたり深めたりする活動を充実させ、仲間とともに学ぶことよきを実感できる授業づくりを行うとともに、日常とのつながりを意識した指導の工夫をすることで、学びを活用する力を伸ばすことに重点を置いて研究を進めていく。

**【研究仮説】** 事象を数理的に捉えて問題を見だし、その問題を自立的、協働的に解決する数学的活動を行い、自己の学びを整理し振り返る方法や日常とのつながりを意識した指導を工夫することで、主体的・対話的で深い学びにつながり、学ぶ楽しさや充実感を味わう児童が育つ。

### 【研究内容】

1 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的に考える児童を育てる指導の在り方	2 自分の考えをもち、伝え合う活動を通して、学びの広がりや深まりを実感できる指導の在り方	3 自己の学びを整理して振り返る指導、日常とのつながりを意識した指導の在り方
--------------------------------------	--	--

### 【研究方法】

①単元で育てたい「数学的な見方・考え方」の具体を単元構想図に位置付ける。	①課題解決に向けて、見通しをもって個人追究に入るための手立てを工夫する。 ②数学的な見方・考え方を働かせながら考えたり伝え合ったりする指導を行う。また、ICT機器の効果的な活用方法を工夫する。	①課題解決の過程を振り返り、学びの広がりや深まりを実感できるようにする。 ②日常生活とのつながりをもたせ、学びを活用する力を伸ばす指導を工夫する。また、単元構想図に位置付ける。
--------------------------------------	---	---